

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【聖和短期大学】

教育研究目標 1

1. 7 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 7 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 7 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 7 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3 名	<p><u>左記を選択した理由：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども・子育て支援制度が始まったばかりで、今後の方針等も未定な部分が多く、対応策も具体化できない状況であるため、具体化は困難であると思われませんが、大きな方向性は確認できました。（評価者 A） ・ 聖和短期大学の教育研究目標に掲げる保育者の育成の実現に向けて、めざす姿と方法が具体的に明記されています。（評価者 C） ・ 幼稚園、保育所の 2 制度から、新しく幼保連携型の認定こども園を含めた 3 つの体系となった。これに伴い、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園に関する科目の教授内容が変更となり、また保育教諭の名称が使われ、養成課程が変更となる可能性がある。これらに対応するため、情報収集やカリキュラムの再編成を検討するように計画している。（評価者 D）
「具体的でない」 1 名	<p><u>左記を選択した理由：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新制度・新カリキュラムの周知・徹底のみでなく、それも含めて具体的な目標の設定が必要と思われる。（評価者 B）
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新制度の周知徹底を 1 年間（専任教員、非常勤教員を同一年度で）でこなし、全体を 1 年前倒しで準備できればなお良いかと思われます。（評価者 A） ・ 幼児の保育教育現場で、変る内容のみに注目せず、変わることはない基本的な内容を峻別し、授業内容を構築していく必要がある。（評価者 D） 	
7 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容 （設定された 7 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）</p>	<p>< 評価者からのコメント ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 免許・資格取得が大前提であれば、めざす姿（目標）は妥当であり、適切だと思われます。（評価者 A） ・ 短期大学の特長を伸長させ、意欲的であるかどうかについては難しい判断になりますが、短期大学の置かれた状況下では、妥当な内容と思われます。（評価者 A） ・ 具体的に、子供・子育て支援制度に必要な知識・技術向上目標を設定する必要があるように思います。（評価者 B） ・ 政府が推進する子ども・子育て支援新制度に対応したカリキュラムの編成とその実践を通して保育者を育成する取組みは、これまでの幼稚園、保育所に加え、新しい幼保連携型の認定こども園にかかる保育教諭といった「保育者の育成」をめざすことは、社会的ニーズを捉えた客観性の高いかつ意欲的取組みでとして評価できます。（評価者 C） ・ 教授内容は、文科省・厚労省・内閣府などによって提示された教授内容方法について、何が必要であり何が求められているかを担当教員が理解し、授業計画を作成し実施する。正確な情報を持ちにくい非常勤講師との情報交換会の開催。ただし、制度はめまぐるしく変更されるので随時対応可能なフレキシビリティを持ちながら進めている。（評価者 D）

<p>評価指標 (目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価指標が定量的でなく、進捗状況を測る上では別の尺度を設定されることが望まれます。(評価者A) ・ 上記に対応した評価指標の設定が必要と思います。(評価者B) ・ 評価指標としての具体的な内容をともなった評価指標および評価尺度にかかる記載がないため、「新制度あるいはカリキュラム編成および授業内容の周知・徹底」という目標の進捗を測る指標の妥当性を見いだすことができません。(評価者C) ・ 評価尺度は妥当である。(評価者D)
<p>目標達成スケジュール (目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周知徹底の期間が少し長いように感じられますので、前倒しでの準備が期待されます。(評価者A) ・ 新制度への対応などを考慮すれば、記載のスケジュール設定は適切です。(評価者C) ・ 妥当である。(評価者D)

教育研究目標 2

1. 7年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と7年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と7年後のめざす姿（目標）との関係性 （※7年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育界・地域社会のリーダー的働きを考慮して、様々な試みへの積極性は評価できます。（評価者A） ・ 各種の評価指標が総合的に考慮されていると思います。（評価者B） ・ 学会等における保育に関する研究成果の発表数、公的研究資金の獲得状況を50%増加させることにより、保育に関する研究成果の発信と社会還元の充実に図ることは好ましい。（評価者D）
「具体的でない」 1名	<u>左記を選択した理由：</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ めざす目標において、「研究活動の充実に図る」「連携体制をより強固なものにする」と具体性をともなっていないため、具体的な「あるべき姿」像を見いだすことができません。（評価者C）
その他気づいた点： <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度ごとの目標値に、「周知徹底」「活動の実施」「対応検討」などと記載されていますが、ここで求められている「目標値」はどのような意味と解釈すればいいのでしょうか。また達成度評価との関係をどのように捉えたらいいのでしょうか。（評価者C） ・ 各教員の目標値などを提示することも必要であろう。（評価者D） 	
7年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された7年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期大学の将来性を考えた時に、保育界全体、地域社会との連携は重要と考えられ、そこでリーダーシップを発揮することは、意欲的で特長を伸長させることになると思われます。妥当で適切な目標と思われます。（評価者A） ・ 上述のとおり「充実に図る」「強固なものにする」と具体性をともなっていないため、目標の妥当性、適切性を見いだすことができません。（評価者C） ・ 論文、研究発表、紀要の発行、公的研究資金の獲得、キリスト教教育・保育研究センターでの研究会の実施等を明記して具体性を持っていることが素晴らしい。（評価者D）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な試みをベースに、研究成果の発信、連携強化活動の実施実績等を評価指標としており、妥当と考えます。なお、現状に加えて回数等の定量的な指標が加えられることが期待されます。（評価者A） ・ 研究成果の発信、社会への還元としての評価指標として、学会における論文、研究発表、紀要の発行、研究会等の実績を、また保育界、地域社会と連携としての評価資料として、貴学の知的資源を活用したリカレント教育、研修会などの実績として設定するなど、評価指標を的確に設定されています。（評価者C） ・ 妥当である。（評価者D）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価等を含め妥当と思われます。（評価者A） ・ 目標からあるべき姿が見いだせないため、達成スケジュールの妥当性について判断できませんでした。（評価者C） ・ 現在までの継続の上に続行されるので適切である。（評価者D）

教育研究目標 3

1. 7年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と7年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と7年後のめざす姿（目標）との関係性 （※7年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2名	左記を選択した理由： ・ 学生の保育士になる夢の実現のために学生支援を行い、現在の高い就職率を維持するという具体性を持った内容になっています。（評価者C） ・ 全体の目標が明示されている。（評価者D）
「具体的でない」 2名	左記を選択した理由： ・ アドバイザー制の充実、進路支援強化等の具体策が望まれます。（評価者A） ・ 評価指標として、就職率、免許・資格取得率以外の評価指標を設定する必要があると思います。（評価者B）
その他気づいた点： ・ 教育研究目標として、「学生支援を強化する」ことが掲げられているが、7年後のめざす目標においては、「学生支援を行い、現在の就職率を維持する」ことが掲げられているので、その関係性（学生支援が前者では「目的」となっており、後者は「手段」となっている）を明確にすることが望ましい。（評価者C） ・ 個人の目標値の設定の必要性。（評価者D）	
7年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された7年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 短期大学として不変的な目標であり、7年後のめざすべき姿（目標）としても妥当ではあると思われませんが、特長を伸長させる目標かどうかは疑問が残ります。（評価者A） ・ 設定された7年後のめざす姿（目標）の内容は、聖和短期大学の保育学の特質を活かし、資格取得率、就職率も90%を達成しており、それを高い水準で維持させる内容となっていることは評価できます。（評価者C） ・ 全体として意欲的な内容である。ただし、各教員の目標達成の上で達成されるものであることなので、教員は努力するようにしたい。（評価者D）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 就職率、免許・資格の取得率等定量的な指標が示されており、評価できます。（評価者A） ・ 目標である「高い就職率の維持」を評価する指標としての就職率、資格取得率は妥当です。（評価者C） ・ 妥当である。（評価者D）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 現状を維持する困難さも理解できますが、適切かどうかには疑問が残ります。（評価者A） ・ 毎年度の達成目標が同じであることから、目標設定に向けてのスケジュール設定が長すぎるのか、短すぎないのか、スケジュール設定の適切さについては判断しかねます。（評価者C） ・ 妥当である。（評価者D）